━牧 師 室 か ら━

教会創立１２周年記念礼拝を捧げた。創立に尽力くださった中村橋伝道所の渡辺英俊牧師を説教にお招きした。先生はマタイ福音書２５章３１節～４６節から、教会を意識したマタイの編集とユダヤ教的背景を持つ言葉を除いたイエスの原意を汲み取ると衝撃的な変革が起こると語り出された。人は神を上昇指向の頂点におられると思っている。しかしイエスは飢え渇いている人、旅人、裸の人、病気の人、牢にいる人に親切をしたことが、即、神に対してしたことであると語られた。神は上ではなく「片隅に」おられると神認識の大転換を示している。先生はご自分で始められた開拓伝道と外国人労働者の権利のための働きから、イエスの言葉の真実さを知らされている。神との出会いは片隅で苦しんでいるところにあり、そこから教会は新しくされる。既成教会のあり方に大きな問題提起をされ、これからの教会は、イエスの語られたこの真理を生きることであると力説された。

昼食後、続いて外国人労働者の権利を支援する「カラバオの会」の働きについて伺った。売春を強要されるところを救出した事件から話し始められた。売春は買春、ｂｕｙ春であり、買う方に問題がある。それは過激に働かされるサラリーマンのストレスによる著しい人間破壊に起因している。又先進諸国の第三世界からの収奪に触れ、職を無くした労働者は外国に出稼ぎに行かざるを得ない。その労働者が必要とされていながら、「不法就労」という言葉によって人権が奪われている矛盾と痛ましい悲劇がある。５年間の具体的な支援活動を話された。問題は深刻だが、先生は生き生きと楽しそうに働いておられる。

先生の言われるように皆んなが寿町に行かなければキリストにお会いできないとは思わないが、大変刺激的だった。情報が多いから問題は誰にでも見えている。ただ見えているだけでは見ていないのと同じである。これからの教会形成に大きな指針となるメッセージをいただいた記念日となった。

週　　報

１９９２年７月５日　聖霊降臨節第５主日

巻 １３　　１４号

１９９２年度教会主題

「 復 活 の 主 を 見 る 」

聖 句　　すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」語り合った。
　　ルカによる福音書　２４章３１節～３２節

目 標　１．生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
　　２．交わりを深めつつ、教会の新しい方向を求める。

日本キリスト教団　横浜港南台教会

〒233　横浜市港南区港南台 7丁目-8-29
電話　045-833-5323、 045-833-6616
振替　横浜 9-13994

牧 師　秋 吉 隆 雄